

2017年1月1日

## 福音書からのメッセージ

八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

(ルカによる福音書 2章 21節)

1月1日は、教会の暦の上では主イエス命名の日と呼ばれています。幼子がイエスという名前を付けられたことを記念する日です。わたしたちはこの一年も、イエス様と共に歩みたいと思います。

今日の箇所には羊飼いたちが登場します。この箇所の直前に彼らは、イエス様の誕生を誰よりも先に知らされます。しかしその頃の羊飼いは貧しく、身分の低い人たちでした。彼らの職業は蔑視され、社会の周辺に追いやられていたのです。しかしみ子が生まれたという喜びの知らせは、まずその人たちに届けられました。普通、子どもが誕生したという知らせは、まず誰の元に行くのでしょうか。家族の元に、親戚の元に、親しい人たちの元に、そして一番大切に思う人たちの元に。

救い主の誕生は、まず社会で一番小さくされていた人たちのところに届けられました。それは神さまにとって、その小さくされた存在が、一番大切だったことを意味します。羊飼いたちのところに主の天使がやって来て、救い主の誕生を告げ知らせたときに、彼らは非常に恐れしました。それはそうでしょう。突然天から天使が近づいて来て、話しかけるのです。みなさんだったら、どう思うのでしょうか。

羊飼いたちは二つの意味で恐れただけではないのでしょうか。一つは神的存在を見てしまったから。旧約の時代、神さまを見た者は必ず死ぬと言われていました。ですか



ら、神さまにとっても近い存在である天使を見てしまったことに恐れたのです。

そしてもう一つ、羊飼いたちは自分たちのことを、神さまとは何の関わりもない、罪深い者だと考えていたと思います。だから天使が自分たちに声を掛けるはずなどないと思った。でもそのありえない出来事が起こったから、恐れたのです。

その大きな恐れは、わたしたち一人ひとりのものでもあるのです。わたしたちも神さまに手を差し伸べられ、語りかけられ、呼び集められました。でもその声に、すんなりと応答できたでしょうか。その呼びかけに恐れ、どうしていいのかわからない、それがわたしたちの姿なのではないでしょうか。

羊飼いたちは、行って、イエス様を探し当てました。イエス様に会いに行く。それこそ、わたしたちにも求められていることなのです。わたしたちもイエス様に会いに、ベツレヘムへ向かうのです。

こんなわたしたちにも神さまが目を掛けてくださったことをおぼえ、日々歩んでまいりましょう。イエス様はわたしたちと共にいてくださいます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>